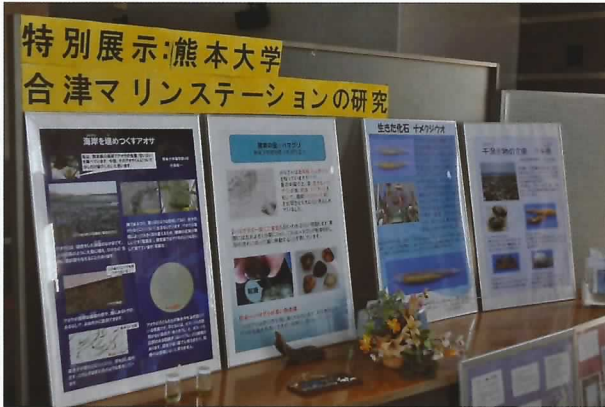


特別展示「熊本大学合津マリンステーションの研究」を開催

天草ビジターセンター（環境省が助成する県の施設：上天草市松島町合津）で、2011年7月20日～10月24日に、特別展示「熊本大学合津マリンステーションの研究」が開催されました。この展示では、合津マリンステーションに所属する学生12名が、それぞれの研究を一般の方にもわかりやすいようにビジュアルなポスターで紹介しました。



展示内容は、以下の通りでした。

1. テナガツノヤドカリとユビナガホンヤドカリ（下山りえ）
2. 海岸を埋めつくすアオサ（村田泰一）
3. 巨大なハサミを持つシオマネキ（望月佑一）
4. 熊本の宝：ハマグリ（橋口真大）
5. 生きた化石 ナメクジウオ（山口純平）
6. 干潟生物の宝庫：カキ岩礁（木之下央貴）
7. 深海のオアシスの住人 ～高温の温泉～（瀬戸口友佳）
8. アラムシロガイとマキガイイソギンチャクの紹介（福田ゆか）
9. 殻を持たない貝の仲間（追立泰久）
10. 塩性湿地のいきものたち（淵本大地）
11. 天草のカニたち
 - (1) チゴガニのwaving行動（泉大智）
 - (2) ハクセンシオマネキのハサミの再生（小島太一）

新技術開発：浚渫土砂を有効活用した「新規環境材料」を産学連携で開発!!

大量に発生する浚渫土砂や海底の底泥（ヘドロ）と紙の製造工程で生じる繊維カス（PS灰；ペーパーラッジ）を混ぜ合わせて「造粒物」を作る技術を、日本製紙(株)、(株)福岡建設と熊本大学の滝川研究室との共同研究で開発しました。廃棄物である浚渫土や底質環境悪化の原因である海底のヘドロなどから環境に優しく、土質を改良でき、砂の代替材料として活用できる画期的な環境材料です。様々な試験や現地実証実験を実施し、アサリの稚貝などの生物が確認され、安心・安全な新環境材料が誕生しました。現在は、さらなる用途開発が進められています。



現地実証試験では、ソトオリガイをはじめ、アサリやトビハゼなどが確認された。

PS灰



PS灰：ボイラーで燃料を燃焼した後に発生する灰のこと（ペーパー・スラッジ灰）

浚渫土



浚渫土：水中で掘った土砂、底泥のこと

「干潟造成材料」

PS灰を混ぜると、粒を形成しやすくなります



- ・汚濁底泥の除去
- ・底質環境改善